

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2011年度 第1号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室内

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://keles.web.infoseek.co.jp/> 2011年5月2日発行



巻頭言

関西英語教育学会幹事・紀要編集委員長 有本 純 (関西国際大学)

新学期が始まり、皆様はたいへんお忙しくしておられることと思います。毎年のことですが、4月の新年度開始を迎えると、また新しい1年が始まるのだという高揚した気持ちになりますし、授業でどのような学生と出会うだろうかという期待感も高まります。

さて、小学校では英語活動が必修として開始されました。現場の先生方のご苦勞を察すると、教員研修の内容と回数点では、準備不足の感が否めません。また、週に一回で児童に興味を持たせることが可能なのかどうか、甚だ疑問を感じています。今後もこの問題は、推進派と反対派の間で議論が続いていくことでしょう。私は、何もしないよりはマシかもしれないが、期待を持ち過ぎてダメだという意見です。保護者の期待感、かなり先生方を苦しめることになるのではないのでしょうか。さらに、英語嫌いを作らないような配慮も、お願いしたいところです。同時に、同じ地域にある小中の連携を進め、共通理解を持つことが、児童・生徒の為にもなると信じています。

中学・高校でも年度進行で、新学習指導要領に沿って新しい検定教科書が出てきます。教育行政側は、これで英語教育が変わると本気で考えているのでしょうか？私は悲観的な見方をしています。言い換えると、教員の意識改革がどこまで進んでいるのか、という点での疑問です。学会が主催するセミナーや研修会に参加される先生方は、その意識が高く、より良い英語教育を目指して、日々努力を続けておられると思いますが、一つの学校全体として、あるいは地域として見た場合には、変革はそれ程進んでいないように見えます。「教員の意識が変わらなければ、教育は変わらない」

というのが持論ですが、学校によっては熱心な校長の指導力により、またある学校では英語科の先生方が共通認識を持って変えようと協力しておられる姿を見ることがあり、応援したくなることがあります。

大学はどうでしょうか？指導要領も検定教科書もなく、自由裁量で行えると言えば、良いように聞こえますが、逆に言えば、好き勝手に放置されている場合もあるということです。しかし、シラバスを公開することが義務付けられ、1学期に15週の授業時間を確保するよう（定期試験は15週の外になった為に、正しく守ると春学期の試験は8月の1週目）になっていますが、まじめに実行している大学が、どれだけあるのでしょうか。一方で、祝日にも授業をする大学が増えていますね。科目の目標や評価基準、さらには指導法から教科書まで指定している大学もあれば、非常勤に丸投げする大学もあり、その実態を知ると、いずれの場合もかなり驚かされます。大学には、各々の英語教育に対する方針があるはずですが、後者の場合、それを放棄していると言えるでしょう。

50%を越える進学率の急上昇によって、英語の筆記試験を実施せず推薦入試で人員を確保する大学では、補習クラスが必要になり、be動詞から教え直す授業もあるといった、笑い話にもならないような事が起きています。大学入試センター試験を利用して、高校卒業認定試験にしてはどうでしょうか。高校卒業程度の質保証が確保できます。同じ事が、大学卒業程度とは、どのような能力や英語力を持つ人を指すのかを考えねばなりません。学部学科の内容にもよりますが、国際的にも大学の質保証が求められる社会へと確実に移行

しています。勉強をしなくても卒業できるような「楽勝大学」は、社会的信頼を失うことでしょう。一般教養の英語だからと甘く見ていては、大学卒業者の英語

力は国際的にも通用せず、競争力のない人材を送り出してしまいます。教育者として、心を引き締めてかかりたいと思います。

関西英語教育学会 2011 年度(第 16 回)研究大会のご案内

今年度の研究大会が下記の日程で開催されます。

開催日：2011 年 6 月 4 日（土）

会場：関西大学・千里山キャンパス

8:30 受付開始, 9:00~17:45

多くの研究発表・事例報告のほか、充実したワークショップ、シンポジウムが組まれております。

ここでは、シンポジウム、ワークショップについてご紹介します。お知り合いの先生方をお誘いいただき、多くの皆様にご参加いただけるのを楽しみにしております。同封のプログラムもご覧下さい。

*

◎ワークショップ

「教科書を活用して統合的な授業を行う」

講師：磯田貴道先生（広島大学）

ワークショップには、『教科書の文章を活用する英語指導—授業を活性化する技 108』（成美堂）、『授業への反応を通して捉える英語学習者の動機づけ』（溪水社）などの著者としても有名な磯田先生をお招きします。教科書にある文章をもとにして、いろいろな活動ができることを、実際の教科書を使って参加者に活動を体験していただきます。

*

◎シンポジウム

「数値目標至上主義の時代をどう乗り越えるか？—本当に学習者のためになる英語教育実践を続けるために—」

提案者：鈴木 寿一（京都外国語大学）

溝畑 保之（大阪府立鳳高等学校）

平尾 一成（大阪府立寝屋川高等学校）

最近、近視眼的な数値目標が教育界に導入されるようになり、中高大ともに、数値目標達成のために、成果測定のためのテストで受験者が良い成績を取れるよう、テスト対策授業が増えつつあります。それにとまって、より良い英語教育を目指して努力しておられる先生方が、テスト対策指導を強要されたり、テスト対策に直接結びついていないとして、内容豊かな授業を批判されたりして、苦しい立場に置かれる傾向が強くなっています。このような状況下で、長い目で見ると本当に学習者のためになる英語教育を実践するにはどうすればいいのでしょうか。この問題と長年にわたって向き合い、乗り越えてきた 3 名の提案者が、それぞれの経験に基づいて、苦しい状況下で、より良い英語教育を実践し、仲間を増やしていくにはどうすればよいかを提案します。

平成 23 年度全国英語教育学会第 1 回理事会 議事録（抜粋）

開催日：2011 年 3 月 26 日（土） 会場：関西大学・千里山キャンパス岩崎記念館 2 階会議室

出席者：瀬川俊一（会長）、松本達也（会長代行副会長・四国）、大里文人（副会長・九州）、卯城祐司（副会長・関東）、竹内典彦（理事・北海道）、小野真嗣（理

事兼幹事・北海道）、佐々木正彦（理事・東北/山形研究大会実行委員長）、松沢伸二（理事・関東甲信越）、大下邦幸（理事・中部）、杉浦正好（理事・中部）、

吉田信介(理事・関西)、大和知史(理事兼幹事代理・関西)、宮迫靖静(理事・中国)、高塚成信(理事・中国)、伊東治己(理事・四国)、山内進(理事・九州) <以下、オブザーバー> 小関文典(幹事代理・東北/山形研究大会事務局長)、羽山恵(幹事・関東甲信越)、酒井英樹(幹事代理・中部)、竹野純一郎(幹事・中国)、大城明子(幹事・九州)、山岡俊比古(紀要編集委員長(H21~22年度))、今井裕之(紀要編集事務局長(H21~22年度))、吉田達弘(事務局長(H21~22年度))、廣森友人(事務局長(H23年度~))、岡良和(事務局会計担当)、清水裕子(事務局研究担当)

* * *

開会に先立ち、東日本大震災被災者のご冥福をお祈りし、お見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興を祈念して、合掌・黙禱を行った。

その後、会長挨拶に続いて、下記議題順に審議が行われた。

1) 平成23年度新役員

・平成23年度JASELE新役員が紹介され、了承された。

2) 第37回山形研究大会実施要綱

- ・佐々木正彦山形研究大会実行委員長より、会場、大会日程、発表申し込み要領、予稿集テンプレート、プログラムの詳細について説明、提案がなされ、了承された。
- ・震災の影響による大会の実行可能性について実行委員会でも討議の結果、予定どおり実施を決定。なお、廣森友人事務局長より本部事務局からの支援体制として、(1)大会運営費の増額、(2)参加者減少による赤字が出た場合の補てん、(3)研究大会への協賛・広告の依頼、について提案され、それぞれ了承された。

3) 平成22年度決算

- ・廣森友人事務局長より説明があり、了承された。なお、今後、監査を行い、最終的な承認は、第2回理事会ならびに総会において行われる。
- ・「紀要編集事務局費」と「事務補助費内の紀要編集事務局費」の違いについての説明があった。前者は住所不定等により戻ってきた紀要の再送付等の費用、後者は論文等のPDF化に際しての著者への連絡費と

して利用された、との説明がなされた。

4) 平成23年度年度予算

- ・廣森友人事務局長より説明があり、了承された。
- ・事務局費については廃止し、紀要販売に係る送料については通信費として計上するとの説明がなされた。
- ・紀要送付については、平成22年度はクロネコメール便を利用したが、転居先不明の場合の転送がなされないことから、平成23年度は郵便に戻す予定との説明がなされた。

5) 第38回愛知研究大会について

- ・杉浦正好愛知研究大会実行委員長より、資料に基づき経過報告がなされた。

6) 紀要ARELE22号編集経過報告

- ・山岡俊比古紀要編集委員長より、資料に基づき活動報告、査読方針(確認)、査読結果、今後の課題等についての説明がなされた。
- ・投稿および査読のインターネットによる作業の問題点について、今井裕之紀要編集事務局長より以下の報告(問題点の共有)があった。
 1. 投稿論文のプロパティに投稿者の名前が残っているため、その消去作業の発生。
 2. 誤送信を防ぐための慎重な作業の必要性とその困難。
 3. 査読コメントの著者へのフィードバックに際しての問題。
 - ・論文のインターネット上の公開について：現在のところ、1巻~22巻の論文420本中、376本が公開予定(公開率89.5%)

7) 学会賞について

- ・山岡俊比古紀要編集委員長より、回収資料に基づいて学術奨励賞、および教育奨励賞について提案がなされ、了承された。

8) ARELEの東北地方への送付について

- ・山岡俊比古紀要編集委員長より、被災地方面の会員への送付に関して意見を求められた。郵便事情に関しては回復しつつあるため、例年通りに送付する方向で作業を進めることとした。

9) 紀要編集委員長の選出および選出方法について

- ・瀬川俊一会長より、資料に基づき説明があった。

・最終的に、会員数の少ない地区（具体的には北海道、四国）に対して、一定の考慮をした修正案（資料 8-2）が本部事務局から提案され、了承された。

10) 今年度の事務局の研究推進

・瀬川俊一会長より背景に関して説明がなされ、廣森友人事務局長、清水裕子事務局補佐より今年度の体制等について説明、ならびに提案があった。今後の具体的な進め方を含め、引き続き、研究推進のあり方を検討していくことが了承された。

11) 課題別フォーラム、授業フォーラム等への経費補助の件

・廣森友人事務局長より、地区研究補助費として 50,000 円×6 件の計上に関する提案があり、了承された。

12) 事務局業務の一部外部委託について

・吉田達弘前事務局より説明がなされた。外部委託を行う可能性を視野に入れながら、今後も引き続きコスト・パフォーマンスのよい業者を探すことなどの説明がなされた。

・13)その他

・廣森友人事務局長より、第 2 回理事会において審議予定の件（愛知研究大会における理事会担当シンポジウム/ワークショップ、学会発足 40 周年記念（統一発足 15 周年）の記念事業等）について説明がなされた。

・瀬川俊一会長より、東日本大震災への義援金について提案があった。この件については、理事会で決定するのではなく、次回理事会で討議し、総会で提案することとした。以上

学会事務局からのお知らせ

◆10 周年記念紀要 DVD 販売中!

『英語教育研究』（第 1 号～第 28 号）と『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』（第 1 回～第 9 回）をすべて電子化いたしました。KELES の歩みの記録として、また、英語教育研究の必携情報レポジトリとして、ぜひお手元におそろえください。

◇申込方法：学会ホームページのご購入申込みフォームをご利用下さい。

◇販売価格：会員価格 3,000 円、非会員価格 6,000 円（送料込）

◇DVD 代金振込先：年会費振込先と同じです。

◆学会費納入のお願い

2011 年度分の学会費は、2011 年 6 月 4 日に開催される研究大会までに納入をお願いします。

また、2010 年度分までの学会費が未納の方は至急納入をお願いいたします。年度末に刊行される学会紀要

『英語教育研究 (SELT)』第 34 号は、納入が確認され次第発送させていただきます。

【振込先】

郵便振替先口座番号：00910-7-39666

振替先加入者名：関西英語教育学会

なお、ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込む場合は、以下の要領でお振り込みください。

振込・振替先金融機関：ゆうちょ銀行

振込・振替先支店：ゼロキュウキュウ (099 支店)

預金種目：当座預金

振込・振替先口座番号：0039666

受取人名：カンサイエイゴキョウイクガツカイ

◆各種お問い合わせ

入会・退会、住所変更、メールアドレス登録変更などの、お問い合わせには、学会ホームページの各種フォームをご利用下さい。

URL: <http://keles.web.infoseek.co.jp/>